

ようじえんだより 2018年度10月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目253番地

Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

10月主題『のびやかに』

主題聖句：わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。 コリントの信徒への手紙Ⅰ 3章6節

☆ 0～2歳児：保育者と一緒にさんびかを歌おうとする。全身を使った遊びを楽しむ。散歩に出て風や香りを感じて自然にふれる。

☆ 3～5歳児：神さまのくださっている力を合わせて共に過ごす。いろいろな遊びの中で、身体をたくさん使う心地よさを味わう。遊びに熱中し、くりかえし取り組むことが楽しくなる。

「しつけ」とは何か

「しつけ」と聞いて「子どもを叱ること」と考えている人は意外と多いように感じます。聖書には「主がしつけ・諭されるように育てなさい」という言葉がありますが、そう考えると、自分の感情丸出しで怒鳴ることは、叱ることとは少し違う感じがします。そして、私はしつけ＝叱るだけではないと思っています。認め、励まし、慰め、ほめることも大切なしつけの一部だと思います。もしもしつけが叱るだけであれば、危険を回避し、何かをストップさせることはできますが、子どもの力を引き出すことは難しくなります。私たちは叱ることと共に、認め、励まし、慰め、ほめることも忘れずにいたいと思います。

今は子どもの状態をみて即、親も評価される時代です。「しつけがなっていない」と言われると親としても辛いところです。しかしそのことを恐れ、親としての自己評価を気にしすぎると、本当に子どもを叱ってばかりになるでしょう。

子どもの気持ちを聞いてみる

もし私たちが子どもに感情をぶつけたくなった時(あるいはぶつけてしまった時)、まず考え

なければならないことは「怒ることであつたかどうか」だと思います。たとえばお漏らしをしてしまった場合、これは本人の意思でそうしたわけではありませんから、怒る必要は全くありません。むしろお漏らしをなじられ責められることによって心に深い傷を負うことが学術的にもわかってきています。(精神分析の第一人者のフロイトがこの辺りは深く研究されています)。

しかしたとえば子どもが盗みをした時、大人はそれが不正なことであること、盗みによって困る人がいることを伝えなければなりません。ただし、幼い子どもは自分の感情をコントロールできません。言葉の獲得と共に感情はコントロールできるようになっていきます。自分の気持ちが抑えられないということが幼児期にはよくあります。その時にはまず気持ちを聞く(吐き出させる)ことが大切です。この時のコツですが、暴力まがいの尋問はいけません。ゆっくりと子どもの目を見て気持ちを聞いてみてください。その気持ちを受け止めてから、親としての気持ちも子どもに伝えてみてはどうでしょうか。

園長：久保田愛策

年間主題『イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で～』

主題聖句：愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。

新約聖書 ヨハネの手紙Ⅰ 4章11節